

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375200652
法人名	株式会社 福祉の里
事業所名	グループホーム遊楽苑 師勝
訪問調査日	平成20年6月27日
評価確定日	平成20年8月8日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2375200652
法人名	株式会社 福祉の里
事業所名	グループホーム遊楽苑 師勝
所在地	北名古屋市熊之庄東出42-1 (電 話) 0568-26-5911

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月8日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8人, 非常勤 12人, 常勤換算 5.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	10名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 74 歳	最高 96 歳		
協力医療機関名	いびき野クリニック・名鉄パレ歯科医院・しかつ眼科クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人として、社会を支えていくのは「豊かな物質」ではなく「人の手」であり「ぬくもりの心」と考え、お年寄りの生活を半歩でも一歩でも向上させていく地域密着型企業として社会に携わりたいと、福祉のトータルサービスを提供している。ホーム周りの田んぼは田植えも終わり、梅雨の時期には蛙のにぎやかな合唱が聞こえてくるのかな地域である。管理者は「認知症サポート100万人キャラバンメイト」の講師を務め、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指し活躍されている。ホーム玄関には光触媒脱臭機能の植木が置いてあり、臭いに対して配慮している。ゆったりくつろげる多目的スペース床は、冬季には温水式床暖房になり快適、安全に過ごすことができる。入居者と職員は共に明るく穏やかに毎日の生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については運営推進会議で報告がされ改善に取り組んだ。栄養摂取に関しては、法人内施設の管理栄養士に時々チェックをお願いすることで改善された。災害対策に関しての備蓄品は今後の課題として検討をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員はグループホームに何を求められているのか、外部評価を受けることで認識することができた。今回が2回目の評価であり、自分の意見が書けるようになった。管理者からは、ケアに対して初心を忘れないようにと時折話がある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2カ月に1回開催している。メンバーに入居者、入居者家族、包括支援センター介護支援専門員、民生委員、自治会長で会議が行われている。民生委員、自治会長からは、行事への参加やホームの感想をいただき、お互い協力していきましょうとの声かけがある。今回の外部評価は次回の運営推進会議で報告を予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 月に1回ホーム便り「遊楽苑通信」を家族に郵送している。5月号は職員による入居者の特徴を活かした似顔絵が好評であった。3カ月に1回生活状況のお知らせ(健康状態、食欲、排泄、入浴、睡眠、生活状態、その他)を項目ごとに細かく家族に報告をしている。入居者家族調査から病気になった時は素早く対処して連絡があるので安心しているという意見がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会、自治会に加入している。毎年敬老会の日には近隣に赤飯を持って管理者が挨拶に伺っている。隣の喫茶店に入居者が出かけ、帰る時には喫茶店の方より「今から帰られる」と電話をいただいたり、送ってきていただいたりする。公園の草取り、春の側溝掃除には近隣の方の協力が得られ地域との繋がりの大切さを学んだ。地域の行事夏祭り、秋祭り参加は入居者の楽しみの一つである。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は、いつもひとりを大切にいつも自分らしく暮らせる生活を基本として、『1.自己決定・自立支援個性を大切にします。2.家族と地域の連携を大切にします。3.権利を守ります。』となっている。開設当時の管理者、主任によって理念がつけられた。これからの地域との関わりの大切さを考えた理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務所に掲示してある。毎日朝礼で唱和している。月曜日には法人全体の十か条を唱え、火曜日からはホームの基本理念を唱和している。職員は理念を十分理解し実践に結びつけることで自主性がでており、日々の介護に活かしている。入居者が望む生活を支えていくことが一番と職員は考えてケアしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会に加入している。毎年、敬老会の日には近隣に赤飯を持って管理者が挨拶に伺っている。隣の喫茶店に入居者が出かけ、帰る時には喫茶店の方より「今から帰られる」と電話をいただいたり、送ってきていただいたりする。公園の草取り、春の側溝掃除には近隣の方の協力が得られ、地域との繋がりの大切さを学んだ。地域の行事夏祭り、秋祭り参加は入居者の楽しみの一つである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はグループホームに何を求められているのか、外部評価を受けることで認識することができた。今回が2回目の評価であり、自分の意見が書けるようになった。管理者からは、ケアに対して初心を忘れないようにと時折話がある。前回の評価改善項目である栄養に関しては、法人内施設の管理栄養士に時々チェックをお願いすることで改善された。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催している。メンバーに入居者、入居者家族、包括支援センター介護支援専門員、民生委員、自治会長で会議が行われている。民生委員、自治会長からは行事への参加やホームの感想をいただき、お互い協力していきましょうとの声かけがある。今回の外部評価は次回の運営推進会議で報告を予定している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との話し合いの場に積極的に参加をすることで情報を得ている。北名古屋市長主催地域ケア会議には、管理者が主に参加しているが、会議の内容によっては、他職員が参加することもある。市からの依頼により管理者は認知症フォーラムパネラーや認知症キャラバンメイトの講師を務め認知症に対して地域住民の理解を求められるように努力を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便り「遊楽苑通信」を家族に郵送している。5月号は職員による入居者の特徴を活かした似顔絵が好評であった。3カ月に1回、生活状況のお知らせ(健康状態、食欲、排泄、入浴、睡眠、生活状態、その他)を項目ごとに細かく家族に報告をしている。入居者家族調査から病気になった時は素早く対処し連絡があるので安心しているという意見がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会発足はないが、年に1回家族が集まれるイベントを設け、家族がホームに来訪してもらえる機会をつくっている。家族同士で話し合える時間を提供している。生活状況のお知らせに家族に記入してもらえる欄を設け、苦情、意見、要望などを出してもらっている。出された苦情、意見、要望などは各階ミーティングの際、職員で検討し運営に反映させている。家族には結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する場合は1カ月前には届けを出すように指導しているが、個別に管理者が話を聞く機会をつくっている。ユニットごとに担当制を採って顔馴染みの職員を配置しているが、職員が交代する時は、入居者のダメージが極力少ないように分かりやすく説明し、納得いただいている。入居者家族には文章から来訪された時に話をするよう心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画はないが、段階に応じレベルにあった研修受講の機会を設けている。外部研修について会社負担があり、研修に参加した職員は、研修内容の資料を報告し情報を共有している。パート職員は内部研修参加が難しくミーティングで研修内容の報告を受け確認印を押している。新規職員は約1カ月ほど研修を行い、新規パート職員は約1週間ほどリーダーのもと指導を受け、言葉かけや介護の仕方を実施研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入している。地域ケア会議には管理者、事務員が参加し、勉強会や情報交換をしている。内容によっては会議への参加者を選択している。認知症ケアコーディネーター地域ネットに管理者、主任が参加しホームのケアの向上に活かしている。近隣のグループホームや介護施設とネットワークをつくり相談しあったり情報交換をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には数回自宅や入院先に管理者と看護師が出向き、入居予定者の事前訪問を行っている。入居前に何度か家族と共にホームに足を運んでいただき、食事やレクリエーションを通じて1日の流れを体験していただくこともある。入居待ちの家族には時折り電話連絡をすることで「気にかけてもらってありがたい」と嬉しいの言葉をいただいた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人になりがちな方には声かけをして一緒に過ごすようにしている。入居者の着替えの介助をしている時、入居者より「私が若く生まれ変わったら、あなたの面倒を見てあげる。」「あなたもたいへんだね。がんばらなあかん」という言葉をかけていただくこともある。入居者に料理の味見をしてもらったり、野菜の洗い方、配膳の仕方を教わる機会が多く勉強になっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いの把握が困難な場合は、職員間で話し合いの場を設けているが、家族の知恵を借りることで解決に繋がることもある。日々のつぶやきに耳を傾け、入居者が何を希望されているのか、思いがあるのかを記録として残し職員が共有している。家族の声を聞きたい、知り合いに連絡を取りたい入居者には、自由に電話をかけていただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にミーティングやモニタリングで担当職員が意見を出し、話し合わせ作成されている。来訪時に聞いた家族の意向や要望、入居者の会話の中から汲み取ったことも取り入れられている。できたものは家族に見てもらい意見が出た時はそれも含めて作成されている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリングを行い、見直しているが3カ月ごとに家族からの意向や気づきも聞き、介護計画の見直しを行なっている。変化が生じた場合はその都度話し合いをして実情に応じ見直すが、変化のない人はそのまま現在の計画を継続している。現在はこのように変化のない人が多い。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、皮膚科や眼科、内科、歯科など往診がある。入居者が受診する時には看護師が通院介助をすることもあり、医師から直接状態を聞きホームでの対応の参考にしている。近隣病院での勉強会に参加することで、入居者が入院した場合には、ソーシャルワーカーと連携が取れるようになってきている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めているが、ほとんどの入居者がホームの協力医療機関になっている。通院介助には看護師が同行し、受診結果を記録している。数名の方が以前、かかっていた医師に受診しており家族が通院介助をしているが、家族からの希望があれば職員が付き添うこともある。ホームへは受診結果の報告をいただき情報を共有している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別懇談で重度化や終末期について家族の意向を聞いている。できるだけ家族の意向に添いたい、必要時に医療行為ができないこともあり、かかりつけ医も交え話し合いの場を設けている。話し合いの結果は書面に残している。職員は皆同じ思いで話し合いをしているが、ケースバイケースでできるだけ家族の思いに協力したいと思っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃、入居者への言葉かけには気をつけているが時には、親しみから気楽な言葉遣いになることもある。個人の記録は外部に持ち出さないようにしている。個人の情報はシュレッダーにかけ、メモ紙はピンクの指定の用紙を使い、使用済みは破棄している。薬の空袋は一つの袋にまとめ処分している。職員が居室に入る時は必ず声かけしてから入室している。「遊楽苑通信」への写真掲載については、入居時に「個人情報使用同意書」「写真などの使用に関する同意書」に署名捺印を頂いている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者のペースに合わせてゆったり過ごしていただいている。虫眼鏡を使用しながら時間をかけて新聞をゆっくり読まれる入居者がいる。また、朝10時位まで朝寝坊される入居者がいる。夜は10時位まで、好きなテレビ番組を楽しみながらうたた寝をしてしまう入居者もいる。職員は入居者の思いや気持ちを大切に、希望に添って支援できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は時々入居者の希望を取り入れて作られている。誕生会には本人の希望メニューに応え、職員が寿司やケーキなどを作り、敬老の日には刺身の希望を叶え、皆で楽しく祝っている。入居者は野菜を切ったり食器の準備や後片づけなどできることを職員と一緒にこなしている。食事も職員や入居者同士が会話をしながら楽しんでいる。訪問時に職員がミキサー食の方にも声かけし、食事の内容を説明しながら食事介助をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきになっているが、希望により毎日の人もいる。浴槽の湯は一人ひとり交換しており、気分よく入浴できる。浴槽に入れない人には、車椅子に座り三方向から湯の出る特殊のシャワーを浴びている。また、熱があたり足がむくんでいる人や夜眠れない人は足浴をしている。入浴を拒む人には順番を変えたり、言葉かけに工夫しているが、ほとんどの人はその日に入り、入浴後は気分が良くなり入居者から喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物干し、たたみ、おしぼり配りや1階に食材を取りに行くなど、一人ひとりに合ったことを手伝っている。入居者は、歌うことが好きで多目的スペースで毎日合唱をして楽しんでいる。ホーム内カラオケを楽しむこともある。喫茶店へ行ったり、庭でお茶を飲むことも楽しみの一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへ買い物に行ったり、散歩や喫茶店へ出かけることが入居者の楽しみである。その折には地域の方々と挨拶したり会話をしたりとふれあう機会にもなっている。歩行困難な方には車椅子でベランダに出て日差しや外気に触れられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 連宮首及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある人が外に出ることがあるため、現在は安全のため玄関は施錠している。運営推進会議では自治会長に事情を話し、安全を守るために力を貸していただくことを依頼した。間違えて他の居室へ入る入居者もいるため、夜間のみ居室に施錠する人もある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年に2～3回、昼夜時間帯を変えて入居者も一緒に実施している。運営推進会議で自治会長に協力依頼をしているが、近所の方へも働きかけをする必要を感じている。消防設備の点検は半年に一度業者が行なっている。消防署からはいろいろアドバイスをいただき参考にしている。	○	災害時における飲料水の備蓄はされているが食料についても災害時に入居者にとって何が大切で、食するのに何が便利かを考え備蓄されていくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量をチェック表に記入し把握している。摂取しにくい人には形態を変えてその人の摂取しやすい状態にしている。水分摂取量は1日約1,000ccを目標にしている。水分は起床時、毎食後、10時、15時と入浴後には必ず摂取するようにしている。人によって食事量や水分量を調節し分散してとっている。1カ月に1度、体重測定をし身体の状態を把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階には天窓があり、自然の光が挿し込み天候や季節が感じられる。建物は四方がベランダに囲まれ、それぞれの戸外を眺めることができる。（今は田植えがされた緑の田んぼが見渡せ夜には蛙の泣き声を聞き、季節が感じられる）ホールには畳敷きコーナーがあり、洗濯物たたみやお昼寝に利用されている。ホールは床暖房になっており天上裏にはマイナスイオン浄化装置が設置され、安全で快適に過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室前には動物やメルヘン調絵画の小さな額がかけられている。入り口には手製ののれんが掛けてあり、その人らしい雰囲気が出ている。室内にはタンスや鏡台、ハンガー掛けなど使い慣れた家具が置かれ好みのぬいぐるみや写真なども飾られ居心地よく過ごせる工夫がされている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。